

## 鹿屋市立吾平小学校 特別の教育課程の実施状況等について

## 1 特別の教育課程の概要

本校では、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下記の時数を確保し、英語教育を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学 1 年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校 6 年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成することを目指しています。

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年 (教科)	6 年 (教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let' s Try!1	Let' s Try!2	教科書 My Book	教科書 My Book	

## 2 本校の教育目標

自ら学びに向かい、友達と共に取り組み、新しい時代を生き抜く力を身に付けた吾平の子どもを育てる。

## 3 本校の英語教育の実践について

- ・ 年間指導計画に則り、1・2 年は J T E ・ A L T と担任による外国語活動、3～6 年は吾平中からの S E T 加配 ・ A L T と担任による外国語活動・外国語の学習を行っている。
- ・ 担任と J T E ・ S E T ・ A L T 間で、授業の流れやスキット・ゲームなどの打ち合わせを授業前に行っている。
- ・ 学習において、デジタル教科書などの ICT を活用したり、カードやワークシートなどの教材を活用したりしながら、児童が楽しく分かりやすく学習できるようにしている。
- ・ ウォームアップの時に、担任と A L T や J T E, S E T とスキットをなるべく行い、使う表現に触れさせ、めあてを設定したり、活動を工夫したりしている。
- ・ 個人カードを作成し、めあてを書いたり、本時の反省をしたりすることで、次時へつなげるようにしている。
- ・ 各教室にクラスルームイングリッシュを掲示して、毎時確認できるようにしている。
- ・ 給食時間に英語の歌を流し、英語に触れることができるような場を設定している。

#### 4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

##### (1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は好きですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
好き	93%	74%	70%	35%	31%	64%
どちらかという好き	5%	13%	24%	26%	41%	23%
あまり好きではない	0%	13%	3%	37%	19%	13%
好きではない	2%	0%	3%	2%	9%	0%

##### (2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
33%	53%	7%	7%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 英語に楽しみながら触れる。
- ・ 簡単な単語を覚えたり、あいさつや自己紹介ができる。
- ・ 文法等にこだわらず、コミュニケーションを楽しみ、積極的に学習に取り組もうとする態度を養わせる。
- ・ 英語好きの子どもが増えること。

##### (3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
45%	38%	14%	3%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 楽しく学んでくれたら良い。
- ・ 英語を話す力を身につけてほしい。
- ・ 苦手意識をもたないようにしてほしい。
- ・ 外国の方とコミュニケーションをとれるようになってほしい。

##### (4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
100%	%	%	%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ 国際化、グローバル化への対応の基礎ができる。
- ・ 将来の仕事や社会に役立つことが期待できる。
- ・ 中1ギャップの解消や英語への苦手意識の払拭につながると思う。

## 5 今後の取組について

授業では、CCE（コミュニケーション・クラスルームイングリッシュ）、Small Talkを継続して取り組み、友達や先生などとのジェスチャーも含めたコミュニケーション活動を充実させていきたい。また、実生活の中で場面設定をし、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫しながら友達に自分の思いが伝わったり、友達の伝えたいことが分かったりする事の喜びを味わわせ、コミュニケーションの基礎となる力を養っていきたい。